

オ、イリダンダ、カサスグ、エバヌリ、キツリフネ、ヤグルマギサ、アルマバナウ、等、草木に、ウラジロガシ、ミツバカエデ、ウリハダカエデ、ダンコウハイ、アブキ、サワグルミ、等の木本も見られる。サワグルミは丹生山地では珍らしい。

正午も大分過ぎたので谷川の辺で晝食を取る。これからや、けわらひ山道を歩くので、一列となつて登る。両側には、テツカエデ、ハクウミボノ、ミヤマハツツ、キンギマメザクラ、カワタタギ、クマシデ、マルバマンサク、ミズナラ、イヌシデ、クロウメモドキ、アロツバチ、タムシバ、サイフリボク、クマヤナギ、ミヤマクマヤナギ、ナンキンナナカマド、ウスギヨウラク、ツクバネウツギ、アカシデ、ツノハシバミ、コシアグラ、ホホバキ、ウリカエデ、ツクバネ、カマツカ、ヒメモチ、エゾエゾリハ、ムシクリ、コバノトネリコ(胸花中)サクラの一種^等が草木が多い。草木としては拓けた所に、マスキがあり、所々に咲くチゴニリの施情である。その外に、サンカクズル、アマドコロ、コカンスゲ、オイキヌクソウ、キヌタツク、フデリンンドウ、マツブサ、ツバナ等も見られた。頂上迄の道はかなり長いが、以上の植物が反覆するので、会員は記憶の整理に餘念がない。

从くて頂上えついに一行は、ふくよに脚元、ぎつしりつまつて野原を整潔にして帰途に向く。途中オオシナノキ、ミヅホオズキが見られ、松部落の道端の家に、ケマシソウやシジミバナの栽培されたものが印象的であった。

此のサフラは、その後太牛治三郎先生により、次を如く同定された。即ち
Prunus Pseudo-Sargentii Chi, by br. nov (Prunus Sargentii X P. VEREOLIA)
エチゼンザク=(エゾヤマザクラとクスミザクラとの雑種) (寒蟬義一記)

今立郡權現山植物採集記

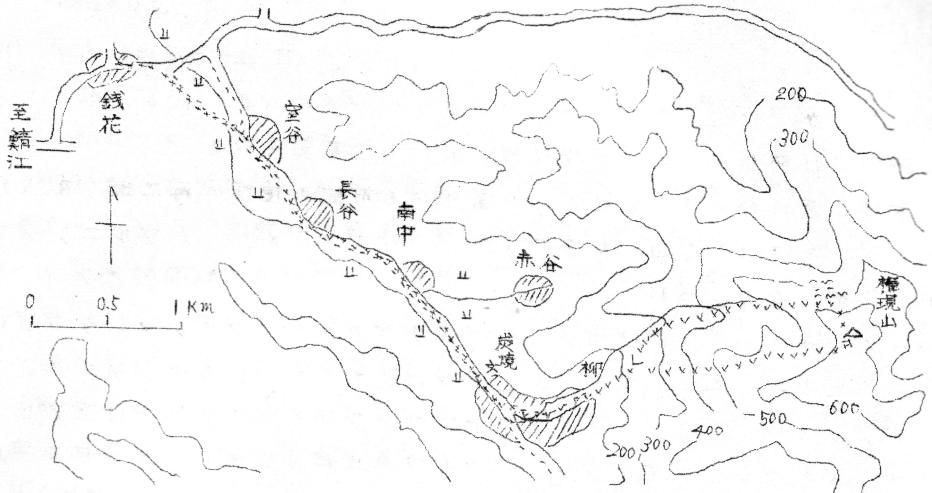
第2回採集会を昭和28年6月14日、今立郡眼向村權現山で行つたので、その大略を報告する。

午前7時西鰐江発駅前行バスに乗つて一行は7時40分鐵橋につき、ここで徒歩や自転車による者を含めて20名の参加者を得て、云々8時から採集会を行つた。

こゝから山麓迄約4kmは、田の中を走る平坦な道で普通原野の植物が多く、本日の指導者塙先生は初歩の人々に懇切に指導をされた。

このあたりに見られる植物は、

チガヤ、ドジョウツナギ、ムツオレグサ、カニツリグサ、カモジグサ、ヌカボ、シバ、ナキナタガヤ、トボシガラ、スズメノテツポウ、チヂミザサ、ゴ



エデミザサ、アシボソ、クサヨシ（以上禾本科）、アカネ、クサアジサイ、イヌグラシ、ドクダミ、ヒメジヨオン、ノキドメ、キツネノボタン、キユウリグサ、ナワシロイギゴ、アオツヅラフジ、ミチヤナギ、ウシハコベ、ギシギシヤマニガナ、サナエタデ、ミズヒキグサ、シンミズヒキ、ウマノミツバ、タツナミソウ、ヤマルリソウ、ホウチャヤクソウ、ノブドウ、アカショウマ、等である。特に禾本科のものは穗が出て居て、採集の好期である。

室谷部落に入る頃から

ツタウルシ、ヤマウルシ、ウツギ、スルデ、イヌワラビ、コウゾリナ、スズメノエンドウ、カスマダサ、カラスノエンドウ、アオカラムシ、オランダハツカ、オヤブジラミ、クサノオウ、タチカタバミ、ノコンギク、クサイ、マスクサ、サンシチソウ、イノモトソウ、ホシダ、マダイオウが現れ、帰化植物のブタクサ、ヒメコバンソウも見られた。

次第に山地の植物が現れ、炭焼部落に入ると、チゴヅナ、アゼスゲ、スズメノチャヒキ、ミヅホクズキ、ユキノシタ、ネコハギ、ニメヨツバムグラ、ノミノツヅリ、トゲソバ、ムラサキシキブ、ニゲキ、シラカシ、クサギ、ミチヤナギ、クマノミズキ、オオアレチノギク、チャセンシダ、ノキシノブ、ヤブヘビイチゴ、キツネアザミ、等が見られた。

やがて道は柳部落を経て山道に入る。この當りには、

トキワハゼ、ミヅカクシ、ヒメサナワラビ、アキチヨウジ、ウワバミソウ、スイバ、ミズタマソウ、モミジイチゴ、セロハヌスピトヘギ、イタチシダ、イヌシデ、イヌワラビ、イタチシダ、キジムシロ、コバノガマズミ、ヤマルリソウ、サジガシクビソウ、シラクシ、タチシノブ、ムラサキシキブ、ダンコウバイ、クロウメモドキ、イヌヨモギ、ヤマボクチ、シラヤマギク、キリンソウ、アマズル、イヌガヤ、トネリコ、ウワミズヅクラ、ハナイカグ、ヒ

メイチゴツナギ、ナツノハナワラビ、キブシ、キンラン、ハリギリ、チゴユリ、コトウヅル、ツルアリドオシ、ソヨゴ、アクシバ、マズレグサ、ウラジロノキ、カマツク、ナツハゼ、ウメガサソウ、等が見られる。かくするうちに時計は11時50分、やゝ平坦な所を出たので昼食を取る。

食後の道は益々けわしい。この當りにも前記の植物が再三出て来るが、その外に、キクバドコロ、キヌタソウ、ツバナ、コメガヤ、ツルニンジンも現れた。更に登るにつれ

ツバキ、サルナシ、ガマズミ、ミヤマガマズミ、ヤマガシウ、ウラジロサルナシ、エノキ、エゾイボタ、ミズナラ、シナノキ、イヌザンショウ、アサクラザンショウ、ミスミソウ、スハマサウ、リウノウギク、クロウメモドキ、オオバギボウシ、イヌザクラ、ハウチワカエデ、クザイソウ、イヌヨモギ、ツクバネ、キハダが現れ、特にキハダが非常に多い。

午後2時頃頂上に着く。この山は高くはないが樹木の伐採少く、しげつて植物相は豊富で有り、特に頂上にある大杉(目通り8m) ヤマナラシ(目通り2m)、モミ(目通り1.2m)等が保存されて居る事は珍しい。この外頂上附近には、オオカニコウモリ、キツコウハグマ、クマシデ、ミヤマハハソ、コバノトネリコ、ブナ、クリノキ、マルバマンサク、オオベノハチジョウシダ、ヤマヨモギ、キヨタキシダ、ミヤマシケシダ、サワグルミはこの方面にはあまり見られないものである。

帰りは道を別にとり山の裏側を出た。ここには集塊岩より成る大岩壁があり、イワデンダ、ヒモカズス、イブキジャコウソウ、リウノウギク、マルバマンネングサ、ミツバベンケイソウ、コオニユリ、「ワヒバ等が附着して居た。ここにツメレンゲがあると云うので、大分探しにが帰途を急ぐので空しく引上る。

柳部落附近でのミツマタ畠は山村特有の眺めとして印象的であった。

かくて採集を終えに一行は、午後5時鉄花発のバスで帰途についた。

[寒蟬義一記]

郷土研究紹介

北陸地方の中新生代植物化石について

その1. コムアントニフキルム属

(自然と社会 12号; 1954年2月)

金沢大学理学部地質学教室 松尾秀郎

標題の如く北陸地方に産する中新生代の植物化石コムアントニフキルム属について記載してあるが、本県奥様のものとして丹生郡田見村船川産のもの(標本所蔵 福井市立郷土博物館)が新産地として記載してある。